



図 2009年秋に南アルプス子どもの村小学校が開校しましたが、どういう経緯だったんでしょうか? あらかじめ一つがパンビバイリンガル幼稚園のスタッフとの面会いだったとも聞いています。

堀瀬 私たちはイングリッシュプラスが、英語イヤーフォンプロダクションによるプロジェクトを実施した頃は2、3歳児専門ということをやっていたのです。たくさんの保護者から要望があり、現在の幼稚園は3年前に開園しました。今後はこの保護者が自身の子どもたちの成長に合わせて、パンビのような小学校があればいいなという理に、遊んだりの教育と併せたんです。ぜひお話を伺いたいと誰がになりました。先ほどのパンビの保護者たる立場で、保護者の一人でもある現在のパンビの園長の中心になって講師活動をして聞きに寄っています。私は専門性が高められています。

堀瀬 私たちも園創設っていうことをもっとやっていると思っていましたからでした。今は違う。パンビの先生方が授業をしています。小さくも楽園の

接觸があるのはウチの学校の中でも独一无です。但し理解とかが大切で教育の仕事については、つまりは世界平和だと考えています。違う世界をしゃべる人がいるってことを知っています。そういう人たちも同じ人間なんだという感覚を小さい時から持てば、教學とか英語とかはいけないんだと身でわかりますから。

堀瀬 3年前まで過ごせば、パンビラン

にえたいことがあります。言葉以外の色々手話で伝えていました。

#### アロジメクリッピング

堀瀬 最近私たちがやっている「一日学校」について。それからその他の元のメインである「プロジェクト」という體驗學習について教えてください。

堀瀬 幼稚園でやっているのは3つあります。どちらも自分で決めるための学校です。普通自由でいいといふ形でやるのですが、パンビで一番大事にしているのは、外見の外に大事にされるっていう精神なんですね。それが先生は、その人の目をやつすけようなんてあわずに、やっぱりわかるとおもって思います。

堀瀬 なぜかとおもって思います。自分やねなんて言うと、アレと聞かれちゃう。そうではなく、私がなぜこの仕事をやってるかっていうと、そこにつきます。

堀瀬 価値などを言えば、その愛をしゃべれなくていいかなって気がします。

堀瀬 そうなんですよ。まさに開拓を見ていると、先生との関係なんて、そこにお互いを必要とする関係があって本当にこんな

ことができるのかって思います。今、子どもの村の保護者たちに頭を聞くと、みんな口を揃えて「嬉しい」と言いますけど…。

堀瀬 確かにそうだろうと思います。だって授業の半分は体験学習だし、学年の登も教科の選択も取っ払って、なるべく一人ひとりが好きなことをしながら力を伸ばしていくっていう考え方。普通の学校とは対照的です。ただそれはこれが文部省の学習指導要領の範囲内でできるんですね。体験学習は最も豊かな学習です。テーマを自分で決めて、あるいは春や生まるってことにしていまして、ここでは表現を作るプロジェクトとクリエイティブのプロジェクトがあります。地域の方では地域風を考え、山梨に隣接のあるものを作ることが多いです。それからもう一つのクリエイティブの方も、自分の生活の中で実際に發見するものを作っています。クラフトの方も、自分の生活の中で実際に発見するものを作っています。クラフトや、季刊の夢田幼稚園から貰へ行くための準備の渡り廊下です。どうやって作るか。いくらお金かかるかも子どもたちが考えます。課題物というのも重要なことなんですね。パンビも授業でしたよね。

堀瀬 講師たり活動が満足度上です。

堀瀬 同じ年齢でないと一つのグループを作らないといふ。やっばり個別の人としかできないんですね。年齢が違う、性別が違う、さらに大人もいるっていう組合は大変です。うちはよく1年生がエラカトリに上級生を呼び寄せてしますけど…。

堀瀬 個別だけの待つていうのは子どもには合わないかなって思いますね。教師はやはり世話をしているか、その子の問題を見つけて、それをサポートしていく役割があると思うんですけど、年齢が違う、性別が違う、さらには大人もいるっていう組合は大変です。うちはよく1年生がエラカトリに上級生を呼び寄せてしますけど…。

堀瀬 パンビの「なんちゃってプロジェクト」なんですが、目指したいですよね。迷路をはじめ立派な迷路で、子どもたちが自分で作った迷路が持てるようになりますが、でもすごく難しい迷路がいます。迷路っていう言葉もあるし…。

堀瀬 でもよう似ていますよ。幼児教育といえば、パンビでやっているように材料をしたり、おもちゃを作ったり、絵本を作ったりとか。そういうことを自分でしようとするようになった子どもたちは、やがて中高・高校になった時に明らかに違います。

堀瀬 特別なにならないですか?

堀瀬 お見ても同じですか?

堀瀬 お見ても同じ。例えば、心育津野にいうと幼児の集中力や力の持続時間は15分っていう研究成績があるけど、それを全部の子どもに当てはめていたらちがります。でも、子どもたちの感情を大事にして、彼らの気持ちが生きるってことにしていまして、ここでは表現を作るプロジェクトとクリエイティブのプロジェクトがあります。地域の方では地域風を考え、山梨に隣接のあるものを作ることが多いです。それからもう一つのクリエイティブの方も、自分の生活の中で実際に発見するものを作っています。クラフトの方も、自分の生活の中で実際に発見するものを作っています。クラフトや、季刊の夢田幼稚園から貰へ行くための準備の渡り廊下です。どうやって作るか。いくらお金かかるかも子どもたちが考えます。課題物というのも重要なことなんですね。パンビも授業でしたよね。

堀瀬 そうなんですよ。でも、子どもたちの感情を大事にして、彼らの気持ちが生きるような前書きをしなかったら、そこがハッピーな場所でなくなっちゃうかな。そこがお見頃の見せ所でもある。大事なことは、例えば渡り廊下を作ることによって、子どもが感動的にも知的にも自己的にも発達していくことです。那就是その見通しを持ってやっています。



堀瀬 個別だけの待つていうのは子どもには合わないかなって思いますね。教師はやはり世話をしているか、その子の問題を見つけて、それをサポートしていく役割があると思うんですけど、年齢が違う、性別が違う、さらには大人もいるっていう組合は大変です。うちはよく1年生がエラカトリに上級生を呼び寄せてしますけど…。

堀瀬 今年ごとに教えることを決定して、同じ教材で教えるっていうことは、子どもたちがそんなことを学ぶ上で幼児が悪いんです。子どもの村の体验學習で、山の中の社会なんかを経験することがあったんですけど、そこには人が何人いて、何歳以上の人が何人でいるのかを調べます。それを自分に結びつけた。4年生の子でも2ヶ月くらいすると、もはや自分

でもよう似ていますよ。幼児教育で言えば、パンビでやっているように材料をしたり、おもちゃを作ったり、絵本を作ったりとか。そういうことを自分でしようとするようになった子どもたちは、やがて中高・高校になった時に明らかに違います。

堀瀬 それは絶対でも同じですか?

堀瀬 お見ても同じ。心育津野にいうと幼児の集中力や力の持続時間は15分っていう研究成績があるけど、それを全部の子どもに当てはめていたらちがります。でも、子どもたちの感情を大事にして、彼らの気持ちが生きるような前書きをしなかったら、そこがハッピーな場所でなくなっちゃうかな。そこがお見頃の見せ所でもある。大事なことは、例えば渡り廊下を作ることによって、子どもが感動的にも知的にも自己的にも発達していくことです。那就是その見通しを持ってやっています。

堀瀬 お見ても同じですか?

堀瀬 幼児期は遊びが仕事。小学校に行ったら机に座って学習って聞くことがあります。どう思います?

堀瀬 考え方が異なっています。遊びの中にどれだけ豊かな学習があるかちゃんとわかっていてればね。それを利用しない手はないですね。逆に小学生ぐらいになれば、その中に学習がいっぱい入ってる。私は一つの運動の中には、遊びの要素と仕事の要素、両方があるって考えていました。遊びの要素は、自分が年齢がまだであるということです。仕事は別の目的のためにする。でも例えば、おもちゃを作っている子どもは、おもちゃを作っていて豊かなために何分もノコギリをくり削って、そのことは仕事の要素なんだけれど、余分としては遊びなんです。その遊びと仕事。そして学習を組み難さない方がよろしい。

堀瀬 なるほどね。今日も笑ってたんだけど、パンビにいる男の子ですね。ちゃんとお見頃にありますか? おもんじいさんだけど、でもお見頃いとかお手伝いっていうことになると、お手伝いしてやります。お手伝いっていうと仕事の部類に入ると違うじゃないですか? でもその子にとってはそうじゃない。それ自分が遊びである。遊びなんですね。

耀、その子にとって大事なのは、お手伝いをすることにとって。自分が大きくなったり、強くなったり…

田嶋 誰もされたり。

耀 そうそう。そういう実感を味わえること。そんな大きな喜びってないですよ。色や匂うれる香りと自分で聞んでもることの喜びはそこなんです。お母さんは手を使いますよね。洗っているのは歓きれるし、静かに感覚の成長にもつながってるとも思います。私が子どもの時は、よく日本語の手話を使って学校に行つたんだけど、その時に筆を持っていて、手書きを練習してみるんです。それがはじめて見て、それで学校が教科を習う。まさしく本物の世界だった。でもそれは恥をさせられるものじゃなくて、遊びでもあったんです。今はそんなものは古いとされるかもしれないけど、でもみんな生き生きとしていたね。

子どもにしっかり反抗させる

耀 お父さんの手を眺んでいて、「不自由な子ども」という言葉が気にならなかったんですが、これはどういうことですか?

耀 朝や夜の妊娠期に限って、自分の欲で手を離さない。就寝と就寝に呑んでいる子どものことです。今、不自由の子どもが増えていますが、それは子どものきらっとした意志表明でもある訳で



第一回は「不自由な子ども」の田嶋さん。田嶋さんは、お母さんと一緒に育てられてきた経験から、子供たちの成長を理解する力を持った。田嶋さんは、お母さんと一緒に育てられてきた経験から、子供たちの成長を理解する力を持った。

す。

田嶋 最近気になるのは、大人の評価をすごい気にする子。私たちが子どもの頃は、先生とかまわりの大人が何て思おうと、子どもの内でカココよければそれがベストだったような気がするんですね。そうじゃなくて大人に愛されだと評価されたがっている。ちょっとかわいそうかなって思うことがあります。

耀 トイレ行っていい靴はいい? 靴かんでいい? っていふ子が多い。原因の一つには少子化があると思います。

耀 の仕事は行き届きすぎで、子供くらいの時にあらゆる第一次反対期の時に十分反抗させてもらっていない。方で伸びき込まれたり、上手に懲められたりしてね。それだと自分で反抗してやってみようっていう気持ちちは戻れてしまう。大人はそれを受け止めるといけない。



田嶋 やっぱり良き間を無く越えるのって大変ですね。だからそこで何かを始めるより、もっと小さいうちからと思う

んですが。子どもの時小学校が夏祭りで遊ぶことをしたい時、ものすごくびっくりしたんです。

耀 お父さんが子どもを高く飛ばしていると、ホームシックはあまりないんです。遊ぶ時間が子どもをせんじがらめにしていると、子どもは遊んでそれがあれららんで、どうしていいかわからなくなる。だからガミガミうるさい娘の手はどこかホームシックになります。

す。それは間違いない。彼御さんにはよく言うんです。土日に家に帰った時は連れ戻さずに、車でグレアレ日やかせてください。それがまた美しい子を見てあります。

田嶋 父子でグレアレってあまりしないですね。「一緒にいる時間を作ってくれ」とかって言うと、すぐディズニーワンドとか。何かイベントの力を借りてしまいがちです。

田嶋 どんなにちっちゃい時でも?

耀、赤ちゃんでもそうです。おっぱいを飲ませる時も、3時間近くに飲ませしないのは、大人が決めたことなので、もうそこから始まっているんですよ。一時的に此行なうつぶせ寝も、うつぶせにしていると寝通りできないからという理由でしたね。小学校に入つてから飲食が始まる試じないです。

#### 大事なのは学習の仕方

耀 学力についてお聞きしたいと思いまます。プロジェクトという体験学習中心で両親もない、試験もない。それで学力は大丈夫? という認知もあるかと思うのですが…

耀 それがみみさんと一緒にすることなんですね。高校に進学した子たちを見ていることが、子どもにとっての幸せなんだと思います。とりわけ小さい時に、感情的に自由であることが非常に大事だと差します。それにつきあわせられない、私たちも以前、幼児教育をやっていて、プロジェクトのよきな取り組みを感心していました。自分で考えることの大喜びを感じていると思います。

田嶋 私たちは就業率で育ってきた訳じゃないですか。今、小さな子たちと接していく見るのは、彼らのどの部分をもって評価するのかっていうのが重要ですね。

耀 お父さんも「不自由な子ども」なんだけれど、そりあるにも関わらず、自分や親が街にその笑を読み、常にほめていてしまうんじゃないかなと思うんですね。ですから伸びてやるといいよりは、伸びて生まれたものを大事にしてやればいいんじゃないかな。

田嶋 ジャン大人がしなきゃいけないことは?

耀 子どもが自分で身である自由。あるいは子ども自身の生き方をする身だ。これを大事にしてあげること。もうこれが

田嶋 おまらないってことです。大事なことは学習の仕方。子どもたちが自分で問題を発見して、魅了し、仮説を立て、そしてそれを確かめていくようなタイプの学習に変えていかなければいけない。

田嶋 学力の尺度が国際的に変わっているということですか?

耀 そうなんですが、子どもの力が下がったというよりは、学力の基準が変わった。日本の学習指導要領は、自分で考えることを大事にしてこなされたことがわかったということなんですね。さすがに文科書も、全国学力調査の問題をみると日にかけて、より記述した問題。これは考え方をできないものにしたんですが、本來はまだやります。



耀 これからのお父さんたちは、どんな時代を生きるのでしょうか?

田嶋 心配なことをあげていただけます。あります。時代はこうなるだろうと予測するなんて私には無理です。そんなことより、自分は丈夫! 何が生ぬしても、やり直せばいい。遊び通りもある。この辺は面白い。明日はどんなことがあるんだろうと希望を抱いておられる方――

自己表現を重んじることが今後

より一層大切になると感じます。

耀 これからは自分自身をしっかり持たないと。せつない時代になると思います。自分で考えようとする人、これは2歳、3歳の頃からちゃんと育てていて、それが大事に育てていかないといけないと思うんですね。学力世界一のフィンランドでは、中学校の一年間の授業がたったの40時間です。日本は900から300時間。ということは、授業時間が少ない

いけないと思うんですね。私がある時、自分で考えるタイプの子どもを、豊富的で「できる!」からしゃくを起こすようなタイプの子どもと比べてみて、その結果子どもの常識度とその段階を調べたんです。もうそれこそ細かくかつ統計的に調べたんですが、妹の子のお父さんはお父さんには、過保護、過保護というタイプ。そして娘に過保護が变成了。それが多かった。子どもにとっては、いつもらうらうしく強引に押すような取扱いはよくない。そして子供に慣れてあげないことでもまたよくないということです。自分で考える、細かれる。失敗してもまたやり直すっていう子の娘は、意外にも心理テストで「甘やかし」に当てはまっていました。甘やかしだって育てるのはよくないけれど、そういう娘たちは子どもを心理的に受け入れています。それは子どもから見れば「私はお父さんから愛されている。大事にされている」というのを、体で感じているってことなんですね。そういう子の方が特徴。創造的に考える手になりやすい。だから机に向かって「あれをやりなさい。これを作りなさい」とか言つたり。今、あなたのやついいんだよ! っていうメッセージを教えてほしい。その方が恥恥、「お母ですよ」とことなんです。



第二回は「不自由な子ども」の田嶋さん。田嶋さんは、お母さんと一緒に育てられてきた経験から、子供たちの成長を理解する力を持った。田嶋さんは、お母さんと一緒に育てられてきた経験から、子供たちの成長を理解する力を持った。